

寿楽苑だより

127号



社会福祉法人 舟見寿楽苑

発行責任者/施設長 高村 敏 明

〒938-0103 富山県下新川郡入善町舟見1664

TEL 0765-78-1935 / FAX 0765-78-1941

e-mail : jurak273@funamijurakuen.jp

http://www.funamijurakuen.jp

舟見寿楽苑

検索

発行/令和 6年 1月20日

スイーツ交流会

12月19日 1階広場で、スイーツ交流会を開催しました。

会場にはクリスマスの音楽が流れ、入居者様は赤いサンタの帽子やトナカイの角飾りなどをかぶり、クリスマスツリー前で記念撮影です。

「とても、お似合いですね」と言うと、笑顔で片手を上げ「はい。チーズ」。

その後、ケーキとチョコレートが配られたのですが、なかでも「このチョコ、なんておいしいか」と大好評。

「チョコって、こんなおいしかったがいね」

「久しぶりやったから、なおさらやわ」



クリスマスプレゼントは帽子と靴下などが準備しており、選ぶのは入居者様と利用者様ご自身です。

「これいいかな」

「それより、こっちの方が、いいかなもけ」

入居者様と利用者様、好きな物を選ぶのに、それは楽しそう。

選んだ帽子をかぶり、笑顔で「これ、あったかいわ」。

職員によるサプライズの踊りも披露され、入居者様と利用者様は、手を叩いて大喜びでした。

このスイーツ交流会は、NHK歳末たすけあい助成で開催したものです。

喜楽苑でおはぎ作り

12月4日、喜楽苑広場でおはぎ作りを行いました。

入居者様は「今、おはぎのご飯炊いとるとこながやと」「私、何すりゃいいか」などとワイワイがやがや。

ご飯が炊きあがると、入居者様の協力で、すりこぎでつぶし、丸めて、あんこときな粉を上のにのせると出来上がりです。

ところが、出来上がったおはぎは昼食用。

「早く、お昼にならんかな」

お待ちかねのお昼では、どなたも最初におはぎをペロリと平らげます。

「これ、おいしいわ。やっぱり自分で作ると違うもん」



ひばり野苑



スイートポテト作り

11月27日、スイートポテト作りを行いました。

入居者様はエプロンに、色とりどりのバンダナをかぶって参加です。蒸したサツマイモをすりつぶし、形を整えてから舟形のアルミホイルの中へ。

「こいが、うちでも作ってたから、知っとるよ」と、座っていた入居者様が、立ち上がってお手伝い。

オーブンで焼き、アイスクリームをトッピングしたらスイートポテトは完成です。

「見られ。こんなおいしそうに出来たわ」



クリスマス会



12月21日、広場でクリスマス会を行いました。

職員はサンタの衣装をし、入居者様も赤い帽子などをかぶり、すっかりクリスマス気分です。

サンタから入居者様へプレゼントの後、ケーキバイキング。すると、「いっぱい、どのケーキにしようか、迷ってしまうわ」と、嬉しい悲鳴も聞こえてきます。

職員と入居者様によるハンドベル演奏では、大きな拍手が沸き起こっていました。このクリスマス会は、NHK歳末たすけあい助成で開催したものです。

デイサービス



新春三味線ショー

1月9日からデイサービス広場で、新春三味線ショーを開催しました。

三味線ショーは、こぎりこ節、越中舟見小唄、佐渡おけさ、花笠音頭、越中おわら節、ソーラン節、南部俵積み唄など全十曲が披露。

曲が始まると、準備してあった歌詞カードを見ながら一緒に歌い出す利用者様。また、越中おわら節が流れると、その場で自然に手踊りが始まり、会場はさながら新春風の盆を迎えたような風情に。



演奏が終わると、あちこちから利用者様の声があがります。

「知っとる歌ばかりで、良かったよ」

「民謡、また聞きたいわ」

「これ、楽しみにしとるもん」

「あの三味線、なんとも言われんね」

三味線ショーは一緒に歌うことができ、三味線の音色に癒されるという利用者様が多く、「次、いつやってももらえるがけ」と、もう職員へのリクエストが。



クリスマス会

12月20日、各ユニット広場でクリスマス会を開催しました。まず、ひまわり広場で「クリスマス会&のど自慢 in 喜楽苑」と題し、入居者様と職員による、のど自慢大会です。

クリスマスメドレーからスタートし、「さざんかの宿」「高原列車は行く」「柔」など、入居者様がマイクを手に自慢の歌を披露。

キンコンカンコンと合格の鐘が鳴るたびに、会場は拍手喝采大盛り上がりです。



その後、広場でケーキを食べているところへ、サンタが登場。お菓子とカレンダーのプレゼントを手渡されると、入居者様が「こいが、もらってもいいが」。

すると、サンタは「プレゼントですから、どうぞ」。「今日はおいしいもん食べたし、のど自慢もみさせてもらいたい、いい日やったわ」。

広場で、いつまでもクリスマスの話題に興ずる入居者様でした。このクリスマス会は、NHK歳末たすけあい助成で開催したものです。



行 事 等



上映会600回目は「ひばり」

12月11日の午後、喜楽苑で600回目となる、「美空ひばり」歌ビデオ上映会を開催しました。

上映会の1回目は、令和元年11月2日のこと。お陰様で、丸4年と約1か月で、600回の節目を迎えたこととなります。

「今日が、600回目なげ。そりゃ、めでたいわ」

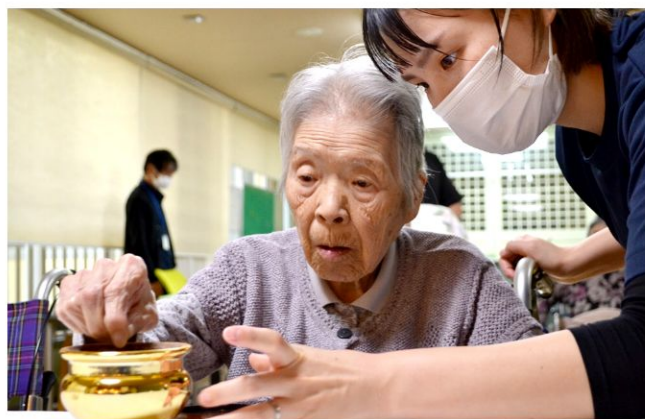
「やっぱり、ひばりちゃんの歌は別格やね」

「映画もいいけど、歌やって楽しみやもん」

「これからも、映画来るが、待っとるよ」



追悼法要



12月14日、舟見寿楽苑の仏間で、令和4年8月22日から令和5年12月13日までにお亡くなりになられた入居者様52名を偲び、追悼法要が執り行われました。

舟見念興寺瓜生住職が仏前で読経。そして、法話の後、参列した入居者様が、お一人ずつ焼香台へと向かいます。

焼香した後、入居者様は両手を合わせ、頭を下げていました。

まごころ善意

令和 5年11月17日～令和 6年 1月17日
(順不同・敬称略)

寄付金

・ 滝本 美樹 ・ 川城 隆彦 ・ 山崎 真理子

寄付物品

・ 木根福寿会 ・ 大角 明 ・ 柏原 英雄



・ 若林 由紀子
車椅子3台と、
食食用エプロン
100枚寄贈



ボランティア

・ 入善町婦人ボランティア連絡協議会

能登半島地震による被害へのお見舞い

能登半島地震で、犠牲になられた方々へお悔やみを申し上げるとともに、被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。また、被災地の一日も早い復旧を、心からお祈りいたします。

社会福祉法人 舟見寿楽苑

車イス清掃活動



11月24日、入善町婦人ボランティア連絡協議会(松平とみ子会長)の会員31名が、舟見寿楽苑と喜楽苑で、車イス清掃活動を行っていただきました。

車イスは、廊下や広場等に準備しており、それを雑巾とブラシを使いながら、1台ずつ磨き上げます。

隅々まで丁寧に拭くため、汗も流れ出てくるほどの頑張りよう。ボランティアの方々のお陰で、車椅子は見違えるほどピカピカになりました。

クリスマスのは、少しおめかし



編集後記

年の暮れ、遅い時間に知人からの宅配便が届きました。受け取って「大変ですね」と言うと、「いえいえ」と手を横に振りながら急いだ様子で車の方へ。「宅配の人、朝から夜まで休む時間もなくて大変だ」。すると、家人が「送った人の温かい心が、箱の中にいっぱい詰まってるのを知ってるから、頑張れるじゃない」。

能登半島地震の直後から、電話、スマホ、メールなどで続々と安否確認の連絡が入り、どれだけ元気づけられたことか。普段からやりとりをしている人たちからで、宅配便で荷物を送ってくれたその人の名も。

最近、年賀状、お中元やお歳暮などを止める人がいるのだとか。年に1度か2度だけでも、お世話になった人や親戚等へ感謝の気持ちを形にして送り、元気を確かめあうって、悪くない慣習のはずけど。

簡素化という理由だけで、まさか相手を思いやる人としての心まで、名簿と一緒に抹消しようなどは。